

意見交換・ワークショップについて

1. 意見交換・ワークショップの流れ



- 参加者の皆さんが様々な意見を沢山話し合えるように、2グループに分かれて、「道の駅」整備に係る意見交換・ワークショップを行います。
- 各グループに進行係がいます。
- 最後に、「道の駅」整備に関する話し合いの結果について、各グループから報告いただき、参加された皆さんで共有したいと思います。



○ ワークショップとは

- 『ワークショップ』とは、あるテーマについて、多くの人たちの意見を出し合う、市民参加型の会議手法です。
- できるだけ多くの参加者から、いろいろな視点での意見をもらうことを狙っています。（グループに分かれる理由）

<ワークショップ3つのルール（注意点）>

自分の意見は
手短かに話しましょう

他の人の意見は
しっかり聞きましょう

他の人の意見を否定し
ないようにしましょう

2. 「道の駅」整備に向けての検討の視点



「道の駅」整備に向けた検討の視点

■ 道の駅とは

- <道の駅に期待するもの>
- ・整備、運営する立場から
 - ・利用する立場から

- <目指す姿>
- ・イメージの共有

■ 道の駅の意味

- <期待する効果>
- ・交流人口増（観光、域内）／賑わい創出／イベント実施
 - ・地産地消／地場産業の振興／商品化開発の拠点
 - ・経済効果／雇用（創出、確保）／起業・企業誘致
 - ・知名度向上／道の駅ブランドの活用
 - ・地域コミュニティ醸成、福祉、教育、歴史、文化
 - ・人口増／移住定住／Uターン
 - ・地域の防災拠点

■ 道の駅のタイプ～幌延町に必要な施設として

- <施設>
- ・整備方式
 - ・既存施設活用 or 専用施設（新設）
 - ・道の駅単独施設 or 付属施設併設／複合施設

- <周辺環境>
- ・立地：郊外、市街地
 - ・観光スポット
 - ・景観、地形、交通環境
 - ・競合施設：ある・なし、近隣道の駅
 - ・交通量／質：多い・少ない、観光・通勤（日常交通）、車種別
 - ・動線（エリア・ルート）：目的地・通過点・通過点ですらない、新動線創出
 - ・利用者：道内・地域住民・商用・観光客・インバウンド
 - ・連携：農協・商工会・その他組織・特定の人
 - ・持続性、発展性

2. 「道の駅」運営に向けての視点



「道の駅」運営に向けた検討の視点

■ どのような道の駅にするか・どのように進めるか

- ・道の駅のコンセプト
- ・ねらい（物／食／情報／体験 など）
- ・地域の関わり方（参加／協力）
- ・経営方針の確立

■ 地域参加・協力

酪農経営者／地域団体、住民、移住者／地場産業、企業、学校／観光協会、商工会／近隣道の駅

■ 運営（整備含む）の留意点～役割

- ・責任、役割、地域振興、災害対応
- ・閑散期（冬期）の運営、経営戦略
- ・民業圧迫、既存経済活動との関係性
- ・維持管理、施設更新（建設～解体までの全体コストの把握）
- ・テナント、産直施設、駅長
- ・運営組織、人材育成
- ・自治体の顔としての道の駅

■ 成功している道の駅／残念な道の駅

- ・成功している（ように見える）道の駅
 - ・残念な（ように見える）道の駅
- ※共通性があるのではないか

幌延町の「道の駅」は何を持って成功といえるのか

⇒○○○○○

要素：地域参画・協働・町の現状

⇒幌延町道の駅整備に関する戦略・戦術の構築につなげる

3. 意見交換・ワークショップの検討内容

検討1. 道の駅整備にあたって

何のために「道の駅」を整備するのか？

目的を実現するための**コンセプト**は何か？

道の駅の目的を達成するために、**必ず必要な機能**は何か？

利用者の立場から、**どのような場所**にあるべきか？

検討2. 幌延の道の駅で目玉商品になりえる「食」

幌延町の特産品に限りません。他のまちの特産品、道の駅で印象に残っている食べ物 何でもOKです。

検討3. 道の駅運営のあり方について

どんな組織が関わった方が
良いのか？

どんな体制で運営することが良いのか？

道の駅で**どのような方に働いてもらう**のか？

検討4. 印象に残ってる道の駅や幌延において視察してみたい道の駅